

「face to faceを科学する」月刊イベントマーケティング

EVENT 56 MARKETING

February 29, 2020

特集
空間の意味、
デザインの意図



今月の特別企画
リゾート×交流×ビジネス
＝沖縄 MICE

発行所：株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9 ABCビル 5F
TEL03-6721-5303 sofufu@event-marketing.co.jp

TAKE FREE

www.event-marketing.co.jp



photo: Messe Düsseldorf / ctilmann

ドイツ行ったり、沖縄に行ったり

文字をつくり、紙を発明し、手紙を書くようになり、郵便制度を整え、電話も実用化した。近年ではインターネットを普及させたことで、Eメールやチャット、ビデオ会議、VRというコミュニケーション手段を生み出した。これでもか、これでもかと、人類は人と会わずにすむ方法を編み出してきたようにも思える。

それでも僕らはせっせと人に会いに行く。

電車が止まったら、振替輸送の路線を必死に探し、それもだめなら歩いてだって会社に行く人もある。働き方改革やモバイルワークが進んでも、MEETUPや社内イベントと、口実を作っては集まる。プライベートならなおのこと。好きな娘とは毎日デートしたいし、アイドルのコンサートや握手会だって行く。合コンや飲み会はいつでも誘って欲しい。

人に会うということは、時間と場所を共有すること。時間や労力やお金をかけてまで、共有したい空間ってどんなところなんだろう。そこまで僕らをかりたてる魅力的な場所は、どうすればくれるのだろうか？

そのヒントを探るために今号では空間デザインについて特集した。場づくりのプロたちのノウハウと情熱が伝わればいいと思う。

そして表紙はドイツのデュッセルドルフで2月16日から20日まで開催されていた、小売業界の見本市 EuroShop の会場だ。Expo & Event Marketing というエリアもあり、日本のイベント業界関係者も多数訪れた。

今号は特別企画もあり、沖縄の MICE についての取組みをとりあげた。リゾートだけでなく、ビジネスやアカデミックなイベントの場として、どう沖縄を魅力的なディスティネーションにするか、本紙も一緒に考えたい。

イベントのために遠くまで行く。そのモチベーションを生む空間をつくっていこう。

すべてのイベントの悩み は、イベントレジストにお任せください！

ビジネスイベントの豊富な経験と実績、イベント主催者様の立場になってサポートします

申込受付管理
ウェブ事前受付
オンライン決済
チケット発券

各種事務局
来場者事務局
スポンサー事務局
登壇者事務局

企画制作・運営
カンファレンス
各種イベントの
企画制作・運営

集客広告
各種ウェブ広告
各種 SNS 広告の
提案・運用

イベントレジスト株式会社
http://eventregist.com 【資料請求・お問い合わせ】 MAIL:contact@eventregist.com TEL:03-6869-5592



リゾート×交流×ビジネス＝沖縄 MICE

琉球の時代からいまアジア発展の架け橋へ

日本にありながら独自の歴史、文化、自然環境を持つ沖縄は、アジアの海洋交易拠点として、あらゆる垣根を越えた交流と融合を生んできた。リゾートでありビジネス都市でもある“沖縄”での特別な体験が生み出す「価値」が、21世紀のアジア発展の架け橋となる。

交流促進、アイデア創出、好アクセス 沖縄で MICE 3つの理由

万国津梁の思想

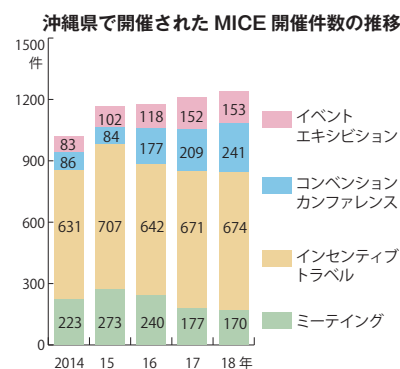
沖縄サミットを開催した万国津梁館の由来は、「琉球国は南海の勝地にして、三韓の秀を鍾（あつ）め…」ではじまる万国津梁の鐘。海洋交易国家として世界の架け橋になるという600年前のメッセージだ。長きにわたりオープンマインドで多様な文化と経済の結節点となっていた沖縄が、いま MICE を通じてビジネスと学術の交流を促進する。

アイデア創出する非日常

サンゴがつくる美しい海、南国特有の青い空、温暖な気候が創出する緑深い自然と、複雑な地形が育てた豊かな生態系は、人の心と感性を磨く。インスピレーションの源となる深いリラックスと穏やかな刺激が同居する非日常的空間が沖縄にはある。ひらめきと創造性が MICE 参加者の新たなアイデア創出に最適な環境をもたらす。

日本の最南端はアジアの中心

約20億人の市場へ直行便で4時間圏内、国際線定期便17路線/週208便(昨年12月時点)という好アクセス。それに加えて産業イノベーション地域などの特区・地域制度で税制上の優遇措置が講じられている。近年では先端医療・健康・バイオ、再生可能エネルギーといった先進課題研究が集積し、MICE 参加者のビジネス・研究を加速させる。



沖縄県内 MICE 開催件数は増加
2018年には過去最高の1,238件が開催され、増加傾向にある。催事別に見ると、コンベンション、カンファレンスの増加率が大きく、241件(前年比115%)。全体の催事別の構成は過去の傾向と同様インセンティブトラベルの割合が大きく674件で全体の54%となっている。



沖縄 MICEPLAYER'S Lip-Dub
沖縄 MICE プロモーション用の動画。沖縄 MICE のキープレイヤー約100人が出演。万国津梁館の館内・周辺をワンテイク長回しでのドローン映像は、多くのプランナーに“こんな場所で MICE を開催してみたい”と思わせた。BGMには「ダイナミック琉球」が採用されている。
(<https://mice.okinawastory.jp/mice-brand/>)



沖縄 MICE ブランドコンセプト
タグラインの Where inspiration meets は、沖縄が「ひらめきや創造性と出会う場所」であることを提起。シンボルマークは、沖縄の海をイメージした色で吹き出しが描かれ、「対話」を起点に湧き出すインスピレーションや繋げられたアイデアが「新たな価値」を創造する姿を表現している。

中長期計画で進む沖縄 MICE 振興戦略

個別と共通の戦略

企業会議 (M)、インセンティブ (I)、会議 (C)、展示会 (E) と、MICE の各分野で個別にターゲットを設定し、それぞれに効果的なセールスと市場分析を実施。また各分野共通の MICE 開催目的は、ビジネスマッチング、研究交流の促進、組織の成長であり、主催者にどのような価値を提供できるのか、沖縄 MICE のコンセプトを浸透させるため沖縄 MICE ブランドを構築。世界に向け継続的に発信。

全県的な受入体制

与那原町と西原町にまたがる中城湾港マリナタウン地区で、大型 MICE 施設の整備計画が進められている。(現在事業手法などを再計画中)。同時に「沖縄 MICE ネットワーク」を組織。産学官連携のもと、MICE 開催を円滑に受け入れる体制の構築や、新たなビジネス、イノベーションの機会創出のため、次のステージに向けた沖縄 MICE 推進に取り組んでいる。

MICE 人材の育成・確保

MICE ビジネスに取り組む幅広い民間事業者を発掘・育成することにより、MICE 関連産業の裾野を広げる。
また、今後は未来の MICE プレーヤーの育成も重要と考え、大学等と連携しながら、多様な MICE 人材を育成する仕組みの構築などにも取り組んでいる。

ユニークベニュー



ガンガラーの谷

数十万の年月と自然の営みが作り上げた天然鍾乳洞でのパーティが楽しめる。鍾乳洞、むき出しの岩肌、太古の世界へタイムスリップするような奇跡の空間。

勝連城跡

世界文化遺産。城の上部から石段での登場シーンは、主役を引き立てる演出に最適。地元の中高校生による沖縄版ミュージカルは、歴史と今を結びつけるコンテンツ。



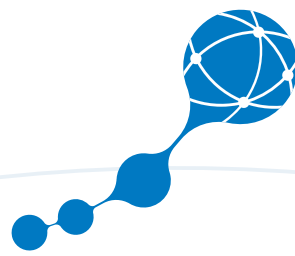
ローカルホストの声

Q1 沖縄で学会を開催するメリットとは
沖縄はサンゴ礁が綺麗な海や、自然豊かな環境の中で会議を行えることが魅力です。また、集まった研究者たちが日常の雰囲気から離れた場所で会議をすることにより、会議や研究者間でのコミュニケーションが活発になります。

Q2 沖縄での学会開催を検討されている主催者に対しメッセージを
豊かな自然の中で会議することは会話が弾む効果もあり大きな魅力です。また、“遠い”という印象がありますが、国内・アジアからのアクセスがよく、今後も充実していくので海外参加者も気軽に参加できることも重要なポイントです。



沖縄科学技術大学院大学 (OIST)
准副学長 森田洋平さん
沖縄で初めて「JNTO MICE 誘致アンバサダー」就任。OIST は NatureIndex 正規化ランキングで日本1位、世界で9位に選ばれた。



OKINAWA Japan

Where inspiration meets

いま世界のビジネスは、^{マイス}MICEで満ちあふれています。

それはいつものオフィスから離れた場所で行う
ミーティング、会議、報奨旅行、学会、展示会などの総称で、日本でも盛んに開催されています。

その開催地に、沖縄を。

日本とアジアの間にあるこの島は、国を、人を、英知をつなぎ、
新たな価値を創造する架け橋として役割を果たしてきました。
そしていま沖縄は、あなたのビジネスを未来へとつないでいきます。

非日常の空間で柔軟な発想を、心躍るひらめきを。

ビジネスに変化をもたらす風を沖縄で感じてみては。

事実、この島でのMICE開催は年間1000件以上。

MICEを迎え入れる環境は万全です。そして今なお進化を続けています。

沖縄は、あなたのビジネスの力になる。

ビジネスが、新しい閃きと出会う日。

OKINAWA MICE



<https://mice.okinawastory.jp/mice-brand/>

空間の意味、デザインの意図

TOPICS

働く“場”の実証実験

丸の内のシェアオフィス「point 0 marunouchi (ポイントゼロマルノウチ)」。本気のオープンイノベーションによる新たな価値創造のため、オープン空間データベースプラットフォームとして、データ収集、可視化、分析の実証実験を行いつつ、ショールーム機能をもつ。

2月3・4日の2日間、その検証結果の発表も兼ねた株式会社point0主催の第1回カンファレンスが行われ、DX時代の空間づくりについて共有された。(全体概要は7p.「あらゆる価値観を定義する場所 .0」参照)

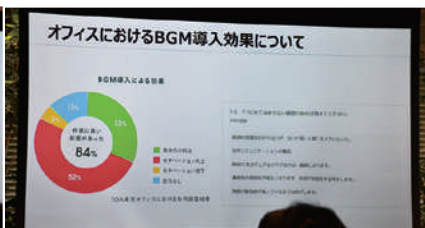
○効率上げるモードチェンジ「CMF」「香り」「音」



point0 Committee のボードメンバーの中の3社から発表されたのは「効率を上げるモードチェンジのススメ」。

オカムラでは、Color 色・Material 素材・Finish 仕上げの3要素のCMFの視点から、Playful 遊び心のある開放感、Hygge 親しみのあるリラックス感などの空間を感性指標で見える化し比較した。

ライオンでは、実証実験中の香りによる空間演出について紹介。会議中の声の抑揚から分析した感情に基づき、異なる香りを噴霧するデバイスで、香りによる生産性向上を検証中だ。



TOAでは、TOA東京オフィス内のアンケート調査より、BGMによって85%以上の人の集中力とモチベーションを上げることができているが、数%の人はモチベーションが低下している、と発表。BGMよりも環境音の方が、効果が幅広いという仮説を point0 で実証している。

○イベント空間領域へも展開

丹青社では、オフィスビジネス空間でのDXを、イベント空間、商業空間、文化空間、ホスピタリティ空間、パブリック空間の他領域へも展開。今後アートとオフィスの融合など、実証予定だ(企画開発センター企画部部長 菅波紀宏さん)。



○窓のない会議室に開放感を

ダイキンでは、窓のない会議室でも開放感で空間を演出する「Linked Air」の実証実験中だ。窓から入ってくる風を、モニターにセットされた空調から吹く風で再現。美しい風景映像とともに流れる空気で心の緊張をほぐし、会議を活性化を試み。



～新商品取扱い～

セキュリティ SECURITY

・金属探知機

・W850×D500
×H2200



ハンディタイプも
ございます。

特許
申請中

あらゆるセキュリティ対策に!

・X線手荷物探知機

・W2480×D875
×H1270



手荷物内の危険物を容易に発見!

・バリケード/イベントフェンス 他

・W1250×D1250
×H1200



・W1800×D450
×H1100



特許
申請中

各種イベントで活躍中!

イベント関係 EVENT

・折り畳み式物品棚(キャスター付)

・W950×D450
×H1800



特許
出願中

コンパクトになり輸送で重宝!

・樹脂天板会議テーブル

・W1805×D450
×H700



雨天時、飲食時に便利!

・ワンタッチテーブル

・φ600~900×H700~1000



取付け取外しがワンタッチ・種類豊富!

レンタル・販売 まずはお気軽にご連絡ください!

／ 各種ECサイト出展・自社HP直接販売 ／

ー レンタル・各支店問い合わせ ー

ジャパンレントオール ジャパンレントオール

Tel:0120-880-688

Mail:japan-rent-all.com

<http://www.japan-rent-all.com/>

ー 販売 ー

ジャパンイベントプロダクツ JEP ジャパンイベントプロダクツ

Tel:078-917-8805

Mail:japan-event-products.com

<http://www.japan-event-products.com/>

～スタッフ同時募集中～

ご利用者募集

募集期間

2019 2020
10月 ~ 5月

move

IN ARIAKE

イベント内容やテーマに合わせオリジナルな空間を演出することのできる特設可能なテントでお客様に非日常的な特別な体験をご提供いたします。

テントサイズ
W20m×D30m×H9m

「有明テニスの森」
駅から徒歩5分



有明 MOVE-S ご利用方法

MOVE-S 使用ご希望の方は右記、弊社 Web サイトの「お問い合わせ」にて必要事項ご入力、お問い合わせ内容に「MOVE-S 使用希望」とご記入いただき、ご応募ください。

西尾レントオール(株)
RA 東日本営業部

TEL : 03-5765-9240

FAX : 03-5765-3240

<http://event.nishio-rent.co.jp>



総合レンタル業のパイオニア

西尾レントオール株式会社

イベント総合 EXPO の
各社ブースにみる

企業の考え・ 顔がみえる空間づくり

伝えるために補完する

サクラインターナショナル

サクラインターナショナルは毎年イベント総合 EXPO に出展し、入社1年目のスタッフがコンセプト立案から企画デザイン・設営運営まで行う。「トータルプロデュースが弊社の強みですが、今回同期入社の13人でプロジェクトの全てを実施したことで、展示という仕事の流れがわかった」と東京企画部に配属されてまもなく1年の黒澤永さんは語る。

今回の自社ブースでは、海外出身社員の写真で国際化を分かりやすく表現したり、手書き風イラストでカジュアルデザインへの対応や若さを訴求。新しく取り組んでいる eSports



入社1年目の若手が企画・運営



のエリアは色調を変えたデザイン、環境配慮を意識したロゴをグリーンに変更したことに対応して、緑色のアクリルをデザイン各所に配置したり、しかけ絵本をつくったりと、自由な発想で、自社出展をプロデュースした。

同社では今、「クリエイティブ」のブランド化に注力している。「私たちが多く手がける BtoB では、企業の伝えたいメッセージを来場者に届けることですが、展示品だけでは正しく伝わらないことがある。それを補完するのが僕たちの仕事」と東京第2企画営業部のナミヤ・ワユパブさんという。1年前の初々しさから、空間づくりの専門家に成長していた。

安全に楽しめる空間を

ジャパンレントオール

展示会やライブイベントの会場施工をてがけるジャパンレントオールでは、近年セキュリティ関連アイテムの導入が進んでいる。「日本は安全、と思ったら大間違い。防犯防災機器をもっと活用しなければ」と代表取締役の加護洋一さんは、安全への想いを語る。「早い、安いということも重要」（加護さん）。握手会など数万人を短時間で案内するためには、多くの探知機が必要。レンタル代が15万円×20台だとして300万円を捻出できる企画会社は多くないだろう。ゲート式金属探知機、X線スキャン、避雷針、カメラ人命発見器など、海外工場で



の自社開発を積極的に行っており、安価で大量に提供できる環境を整えつつある。



加護 洋一さん

どこでもアリーナになる

西尾レントオール

西尾レントオールは従来のスポーツコート床材に加え、今回新たに NBA で多数採用されている木床材ロビンス社オールスタープラスを導入し、どんな場所でも仮設でスポーツアリーナ施設に変えられる。スライド式や跳ね上げ式座席などの多様な観覧席やテント、トレーラーハウスなども取り揃える。また、FUJINON レンズを多数搭載した4K 拡幅中継車、大型 LED ビジョンなど同社のビジュアル営業部のアイテムとスタッフが映像演出や



配信もサポート。注目の eSports 大会専用パッケージシステム「e-S RACK」もラインナップ。会場は探すだけでなく、自由にデザインする時代になってきた。



みなさま、お待たせしました。 お待たせし過ぎたかもしれません。

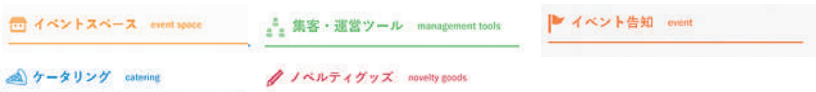
主催者の方々には、イベント参加者を満足させることに集中して欲しい。そんな想いから生まれた、イベント主催者向け情報サイトが「イベントバズール」です。イベント会場、集客ツール、運営サービス、ケータリング、などなどイベント開催に欠かせない情報を、ワンストップでチェックできるサイトを目指しています。

いま、イベントバズールは、皆さまのお役に立つため、さらに見やすく、さらに情報を増やして、生まれ変わろうとしています。



いよいよ次号

β版の情報掲載開始！

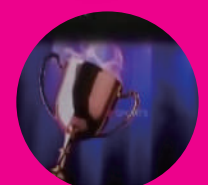


<http://eventbuzzle.com>



次の時代の アツい空間 創ります！





企画・デザイン・運営・施工・警備など

サクラインターナショナル株式会社
SAKURA International Inc.
<http://www.sakurain.co.jp>

■東京本部
〒135-0042 東京都江東区木場2-17-13 第二電ビル5F
Tel: 03-5646-1160 Fax: 03-5646-1161
Tokyo Global Office
Kamei No.2 Bldg., 5F, 17-13, Kiba,
2-Chome, Koto-Ku, Tokyo 135-0042, Japan

■大阪本社
〒541-0051 大阪市中央区備後町1-7-3 ENDO 明苑ビル3F・4F
Tel: 06-6264-3900 Fax: 06-6264-3901
Osaka Head Office
ENDO Sakaisuji Bldg., 3F・4F, 7-3, Bingomachi,
1-chome, Chuo-Ku, Osaka 541-0051, Japan

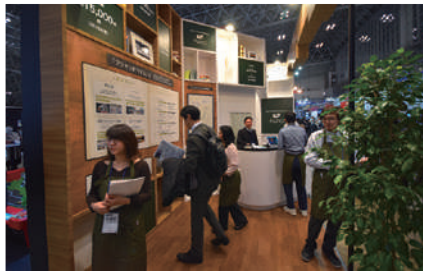
辞書、雑誌などの書籍を手広く取り扱う出版社!?

フジヤ

展示会・公共空間・商業施設の空間デザインやイベント運営を手がけるフジヤは、空間プロデュース出版社“FUJIYA 文庫”を、コンセプトにブースを構え、エプロンをかけた書店員スタイルで来場者を迎えた。

これまでに、薬局、バーと毎回異なる空間を展開している自社出展ブースについて、第1イベントコミュニケーション事業本部副本部長の金本謙二さんは「クライアントでも最初には弊社のブースと気付かないこともあるくらいです。ディスプレイ会社という枠を超えた存在として、来場者の興味をひきつけるのが狙いです。今回は、さまざまな業界企業の多様な空間づくりを国内外のあらゆる場所で行う弊社の引き出しの多さを、書店にならぶいろいろな書籍に見立てました」と説明する。

アテンドする社員が店員さんに扮しているのも、プランニングから次回の提案まで、ワンストップでクライアントに寄り添う姿勢、イベ



ント運営で来場者にたいして心温まる接遇をするといった、“人と人のつながり”を大切にしている同社らしいアイデアだ。

近年、空間を訪れる人に特別な体験を提供するためのしくみが求められることが多い。新しい発想を常に続けるという難しい課題に応えるために必要なのは、引き出しの多さだという。

金本 謙二さん



70年代アメリカをモチーフに

レプラスデザイン

赤、白、黒のコーポレートカラーをベースに自社ロゴとメッセージを中心に添え、事例の写真を掲示したブースづくり。これまでのレプラスデザインの自社ブースは、どちらかといえば、わかりやすさが主眼だった。

今回は、背景が荒野に大型トレーラー、国道脇にはネオン付き大型看板もある。よく見ると看板には同社の事例写真が掲載されているが、レイアウトもどこかアメコミ風だ。

「これまでのイメージを変えようと思い、近未来か70年代アメリカの2択だったのですが、後者で正解でした。出来栄えに満足しています」と語るのは営業企画部の井坂拓己さんだ。鮮やかな色合いのアメリカンデザインは、今回採用した内照式ファブリックの壁面の明るさをうまく引き出していた。ブース中央のカウン



ターの上には、アメリカに合う屋外のもの、ということで TENT を張った。使い回しが効き施工も容易で、イベントでの利用が増えているファブリック、そして屋外用 TENT も実は同社が推しているアイテム。うまくデザインに落とし込んでいた。

井坂 拓己さん



クリエイターにスポットあてる

丹青社

素晴らしいデザインに出会ったときに、「この会社につくって欲しい」なのか「この人をお願いしたい」のか。

イベント総合 EXPO と併催の「第3回スポーツビジネス産業展」での丹青社ブースでは、所属するクリエイターの写真と名前を大型スクリーンに映し出し、携わったプロジェクトの3D 画像をあらゆる視点から閲覧できるというしなを提案した。実際にクリエイター指名での仕事依頼も多いという。

空間と技術の相乗をテーマに協業の場「港南ラボ マークスリー」を運営するなど、丹青社ではデジタル演出に注力している。今回の出展では、3D デザインのシミュレーターを体感的に両手で操作するソリューションを展示。



プロジェクトマネジメントを担当する上野茂俊さんは「これでどうですか、と提案するより、クライアントと一緒にすることが重要。そしていいものをつくるには遊び心もポイントなんです」と語った。

上野 茂俊さん



ターミナルから出発し、顧客の目指す終点へ

トーガシ

企業ロゴが印刷された紙袋が多い展示会場で、“Tohgashop”というキオスクで、ビニール袋にお土産を入れて配るブースがあった。

トーガシのブースは、地下鉄のプラットフォームを模した空間自体がメディアだった。駅で見かける要素がパロディックにデザインされる凝り様だ。電車の造作内には、週刊誌などの中吊り広告が18種類。次駅表示は「企業価値向上」、時刻表を模したモニターからは、オリジナルの音楽まで流れている。

クリエイティブディレクターの小杉将史さんは、「展示会の設計・施工や什器レンタルだけでなく、ブランドプロモーションや、地方創生の仕事も増えており、新しい層にも訴求したかった。」と話す。「クライアントにとって、トーガシは全国へ出発・発進するための始点、



困った場合に基点(起点)にもなる。これをコンセプトに、空間全体の見えるもの・聞こえるものを全て『一つの風景』としてデザインした。」とアートディレクターの河合雄介さん。「モノ語りのあるコトづくり」を常に意識する同社らしいブースになっていた。

河合雄介さん



熱狂を生み出す体験デザイン

ジールアソシエイツ

自社の事業をエクスペリエンスデザインと銘打って、空間プロデュースを行うジールアソシエイツのブースは、「ココロを“ぐぐっと”掴む体験のつくりかた」をテーマに、プレゼンテーションステージを中心した出展を行った。セッションでは、アカツキライブエンターテイメントや面白法人カヤックとともに、てがけたうんこミュージアム TOKYO の空間デザインなどの作品を題材に“熱狂を生み出す体験デザインの作り方を”など、イベントプランナー向けのプレゼンテーションを実施した。

登壇したエクスペリエンスデザイン室室長の蜂谷亮平さんは「計算された面白さ」+「新しい○○」+「期待を超える“予想外”」=感動体験に導くストーリーとして、来場者のマインドセット、期待感のつくりかた、最初のインパクトで心を掴む、別の世界をいざなう展開、



最後の一瞬が大事、といった空間による体験づくりのポイントを披露した。

また、海外からのゲストも登壇し、海外イベント・展示会事情、海外出展サポートについてのトークショーも実施。会場に集まったイベントのプロたちのココロもぐぐっと掴んでいた。

蜂谷 亮平さん



簡単施工で自由度高い beMatrix 推し

東京造形美術

洗練された空間デザインで、毎回自社ブースを設える東京造形美術が、今回はブースを beMatrix で施工し、その構造の特長を前面に押し出していた。

展示ブースで多く用いられるオクタノルムとの最大の違いは、八角形のボールがパネルから凸らずにフラットな壁面がつくれること。「これにより、大きなグラフィックをそのまま壁面に貼れるようになります。展示会だけでなくポップアップショップなどにも使えます」と営業推進部の垣田浩文さんと言う。木工造作や内照式のファブリックなどとも自在に組合せられ、デザインの自由度が高い。壁面に抜けを造ったり、透明なパネルを使いショーケースを造ったりとデザイン上の工夫も可能だ。自由度が高い分デザイナーの腕が試されそう。

もう一つの特長が工具なしで、簡単に施工ができること。フレームに空いた丸い穴に、プ



ロファイルという接続のためのパーツを差し込みネジ回すだけで施工できる。工具で締め直す必要もない。施工の労働力不足や働き方改革にも貢献し、スタッフはデザインワークやコンセプトづくりに注力できそう。

垣田 浩文さん



サポートしてほしいことは一人ひとり違う

—— シティキャスト共通研修

シティキャスト共通研修が現在実施中だが、2月13日にも国立オリンピック記念青少年総合センターで行われ、約80名が参加した。

研修では、オリンピック・パラリンピックのボランティアに必要な基礎知識として、歴史や数字に関する内容をときにクイズ形式で展開。後半では、シティキャストがワンチームで活動するため、ダイバーシティとインクルージョンをテーマに実演デモを交えた講義が行われた。

たとえば、車いす使用者へのサポート実演では、平らな道はないという心づもりで必ず車いすのどこかをもちながら移動すること、視覚障害者への対応では、指示代名詞を使用し



車いす使用者の実演（写真上）。シティキャストのユニフォームも展示され、参加者はバッグサイズなど細かくチェックしていた。



ないお約束や「大会ボランティアスタッフですが、お手伝いしましょうか?」と名乗ってからの声がけなど、ポイントを伝えた。繰り返したのは、「相手はサポートされるプロ」という言葉だ。同伴者でなく、必ず本人に確認することを強調した。

シティキャストは、東京都が応募するボランティア。3万人のシティキャストが期間中、大会メンバーの一員として活躍。空港、都内主要駅、観光地、競技会場の最寄駅周辺及びライブサイトでの観光・交通案内などが主な活動となる。

新型コロナウイルス感染症への対応さまざま

—— イベントマーケティング編集部

新型コロナウイルス感染症の対処法の見通しがみえないなか、国内外のイベントに開催中止や延期、臨時措置などの対応がでてきている。

世界的イベント「Mobile World Congress」の中止や、「東京マラソン」の一般ランナー受付中止などを受け、イベント主催者は規模の大小を問わ

ず開催か中止か、判断を迫られている（下表）。

開催を表明している展示会などでは、対策として「手洗消毒液と注意喚起サインの設置」「救護室の設置」「展示会全参加者へのマスク着用の奨励」のほか、「サーモグラフィーで体温測定を実施」「医師および看護師

の常駐」などで対応する主催者もある。

また、ビジネスカンファレンスでは一部でライブ配信への切り替えも。VR空間上で数千～数万規模のイベントを実施できるプラットフォームClusterには、代替イベントとしての問合せが増えているという。

イベントの対応

[掲載イベントについて] 公式 web サイトで新型コロナウイルスによると明記されているもので、公式に中止・延期・対応措置の発表があるものを抜粋し、発表日順に掲載。イベント名称の後ろの（ ）内は、当初予定の会期・会場など。規模は 60 名～10 万人。（2 月 18 日現在）

●中止 ▲延期 ○LIVE 配信に変更
●2/12「MWC Barcelona 2020 - Mobile World Congress」(2/24～27 バルセロナ) 中止を発表
●2/14「CP+(シービープラス)2020」(2/27～3/1 パシフィコ横浜) 中止を発表
●2/14「Cookpad TechConf 2020」(3/9 恵比寿ガーデンプレイス ザ・ガーデンホール) 中止を発表
●2/17「東京マラソン 2020」一般ランナー受付および「東京マラソン EXPO2020」「前日祭」開催中止を発表 (マラソンエリート・車いすエリートの部のみ開催)
●2/17「江戸 TOKYO 技とテクノの融合展 2020」(2/19 東京国際フォーラム) 中止を発表
▲2/17「世界コマ大戦 2020」(2/22 大さん橋ホール) の開催延期を発表
●2/17「天皇誕生日一般参賀」(2/23 皇居) 中止を発表
▲2/17「AUTO CHINA 2020」(4/21～30 北京) 延期を発表
○2/18「働き方を考えるカンファレンス 2020」(2/20 虎ノ門ヒルズフォーラム)
●▲2/18 大阪府主催イベント、当面1ヶ月、原則中止へ (「1970 年大阪万博 50 周年記念式典及びイベント (3/15)」は中止か延期を検討中)
●2/18「Merpay Tech Fest 2020」(3/17 虎ノ門ヒルズフォーラム) 中止を発表
●2/18「Backlog World 2020」(2/29 太崎ブライトコアホール) 中止を発表 (代替開催検討中)

あらゆる価値観を定義する場所

point 0 (point 0)

#04「point 0 ×オープンから半年の総決算!」

Powered by point 0



2月3日(月)・4日(火)、point 0 marunouchi では株式会社 point0 主催の第1回カンファレンス「point 0 ignite 2020 winter」が開催され、両日で約500人が来場した。オープン時からの実証実験がアップデートされたものもあれば、新規追加された実証実験もある。今後も半年毎にカンファレンスを定期的開催していく。

2日間に渡って4つのトークセッションが行われ、トークテーマには「人が働く」ことに非常に繋がりがあるテーマが選定された。

【効率】働く上での効率が上がる空間とは

1人1人に合った家具、集中できる色彩、行動に合ったレイアウト、音と照明の関係などに考慮し、人に合った働く空間を創るということは複数の要素が含まれるため非常に難しい。オフィスがつけられた時にはアンケートを取るなどでデータが取れるが、数年経った先ではデータを取ることができる環境はなかなか無く、point 0 marunouchi のようなセンシングできる場所は貴重だという。

【創造】働き方の創造に、空間データがどのように寄与するのか

これまで空間データが取れていて、

可視化されていたケースが少なく、今後データが取れていくようになる、働くことと、遊ぶこと、生活することが溶け合っていく状態にあり、オフィスと住宅、都市がより繋がっていくようになると思われる。

【健康】1人1人の幸せのためにオフィスでストレス発散

仕事のストレスの一般的な発散方法として、運動や仮眠、自分と静かに向き合う時間をつくるなどがあるが、それらの行為周辺に使用する設備は家に整っていることが多い。point 0 marunouchi には、仮眠室・シャワー室・瞑想室が併設されており、利用率はいずれも当初の想定よりも高い。ABW の考え方で、1人1人が幸せになるストレス発散を叶えるオフィスであることもこれから求められる健康オフィス要素であるのかもしれない。

株式会社 point0 代表取締役の石原氏は、「オープン時からずっとデータを見て空間の改善を図ってきた。全てがアップデートされていく認識で創っているので、今が一番良い空間が出来上がっている」と話す。更に半年後、どのような空間にアップデートされているのかが、楽しみである。

(文・写真・岡本侑子)

マーケティングではどちらを先に考えるべきか?

A 戦略 B 技術

82%

投票受付中

2020 12.21 MON @TORANOMON HILLS FORUM

体験型マーケティングに学び、出会う1日

#backstage20

BACKSTAGE

今年の冬は暑くなる

～初の冬開催～

QRコード

EVENT MARKETING からの大事なお知らせ

展示会・イベント会場

次の2020年3月31日号で特集します

次はどの会場に行こうかな?

4月30日号 集客を増幅させるテクノロジー

5月31日号 企業イベントの現在と未来

6月30日号 体験価値を可視化するテクノロジー

7月31日号 イベントのケータリング

8月31日号 イベントのSDGsを考える

広告出稿の問合せはこちら▷株式会社 MICE 研究所

info@event-marketing.co.jp (担当: 田中力)



MaaS アプリで新しい移動体験を提案した沖縄セルラー電話株式会社 / KDDI 株式会社ブース



同時開催で行われた Okinawa Startup Festa 内でのスタートアップによるピッチ

ResorTech Okinawa ブランドを発信

ー観光×IT をリーディング産業に



ResorTech Okinawa
おきなわ国際IT見本市実行委員会

実行委員長 稲垣純一さん



事務局長兼 CFO
永井義人さん

ResorTech（以下リゾテック）は、「リゾート」と「テクノロジー」を掛け合わせたコンセプトを表現、観光産業・IT産業をリーディング産業とする沖縄県の特徴を踏まえた展示会として初開催した。国内外からテクノロジー関連企業136社（沖縄県内77社、県外34社、海外25社）が出展、2日間にわたり商談、ビジネスピッチ、事業成果報告等が実施された。

実行委員長の稲垣純一さん（（公社）沖縄県情報産業協会）は、「沖縄県では2018年度に入域観光客数が念願だった1000万人を超え、ハワイを抜きました。一方で、人数では超え

たけれど、観光収入は半分。滞在日数の違いによるものですので、長期宿泊に応える魅力づくりが観光の課題です。そのための戦略の一つとして、ITは効果的に重ねられる」と話す。実際に県では目指すべき基本構想として掲げる「沖縄21世紀ビジョン」で、情報通信関連産業の高度化・多様化に向けた施策を展開。初期には所得が低く、失業率が高いという問題をコールセンターの誘致で解消していくなど、1998年から先駆的に取り組み、アジアの情報通信ハブとしてのネットワーク構築へとスケールアップしてきた背景がある。

実験実証フィールドの提供

リゾテックでは、出展者や商談会参加企業と話していると、「実証実験中」という会話を頻繁に聞いた。実行委員会事務局長の永井義人さん（（一財）沖縄ITイノベーション戦略センター）によると、たとえばホテル業界なら誰もが知るホテルシステムのグローバルベンダー企業も沖縄県に研究所をもっており、現場での実証を繰り返しているのだと話す。なぜ、沖縄なのかの理由としては「地方都市では民泊からビジネスホテルまでがほとんどだけど、沖縄には民泊から高級ホテルまで全部が揃って

いるから」だという。

永井さん自身も県外からの移住者として、実証事業、導入支援、スタートアップ支援をしていくなかでは、沖縄県は歴史的に自己完結欲求が強く自給自足的に文化などを守る面があると分析するが、県外から受け入れて成功している前述のようなベンチャーが沖縄から出てくることでエコシステムができつつあると話す。

また、県外からの参入だけでなく、沖縄県の大企業とスタートアップの橋渡し役としても活躍しており、リゾテック会場でもイノベーション創造機会をつくっていた。

世界水準の観光リゾート地

リゾテックで特徴的なのは、観光産業を広く捉えているところだ。構想当初は泊まる、観るといったいわゆるツーリズムテックのようなイメージだったものを、それでは限定的とし、食事や地域との共生などへと発展。旅行者だけに快適な観光の支援

ソリューションに留まらない、社会サービス、イノベティブな社会変革へと構想は広がった。

実行委員長の稲垣さんは、「フィロソフィーのある展示会を」として、SDGsにおいて提起された社会課題の解決につなげることを目指す。

それは、単純に会期中のみリゾテックのソリューションが集積するイベントではない。その先にあるのは、「世界基準の観光リゾート地へのグローバル展開、ブランド発信」だ。

たとえば、実証実験が各所で行われている沖縄ならではの提案として、展示会の前後でツアーをすることなど、実際の体験が付加価値になるとも話す。

今回は「ツーリズム EXPO ジャパン」（10/29～11/1）との同時開催。どんな展開となるだろうか。

（写真・文＝樋口陽子※レポート詳細はweb版イベントマーケティングにて）

EVENT MARKETING

FREE PAPER

読者Profile

大手メーカー・メーカー

▶年間イベント件数：約20件
デジタルマーケティングと
オフラインを組み合わせ
販促とファンづくりに

製薬会社 ミーティングプランナー

▶年間イベント件数：100件超
業界のファーストムーバーとして
異業種のトレンドを知り
講演会に活かしたい

IT企業向け マーケティングサポーター

▶年間イベント件数：約150件
イベントマーケティングに関わる
テクノロジーやツールについて
情報収集したい



特集

イベントマーケティングのトレンドを
国内外の事例や動向から分析し、
メーカー・イベントの
皆さんと共有します。



国内・海外ニュース

ツールや
テクノロジーの最新情報、
開催直前概況・
事後レポートなどを
紹介します。



コラム

幅広い視野と独自の視点、
経験をもつ
著名人が執筆します。



インタビュー

リアルコミュニケーションを
楽しくをテーマに
話題の方々ほか、イノベーター、
イベントメーカー、
主催者の声を収録。



調査・レポート

効果測定や開催状況の集計、
効果最大化の手法など、
face to faceを科学する
レポートをお届けします。

毎月30日発行

定期送付申し込み

発行所：株式会社 MICE 研究所
〒105-0004 東京都港区新橋 5-12-9
ABCビル 5F
TEL03-6721-5303
sofu@event-marketing.co.jp

